

がっつり行くぜ！ 気合いは充分であった…

奥秩父 奥秩父主脈縦走（中退）

雪山前の体力アップトレーニングを目的として、どこか歩きたいなあと思いついたのが「奥秩父主脈縦走」。トマでは縦走は人気がないようだが、福永さんと耕至さんが乗ってくれた。メンバーもやる気満々。完全縦走をめざしたはずが…。

【日程】

2015年11月21日(土)
～11月23日(月)

【メンバー】

松本(し)、福永、佐藤(けん)

【地形図】雲取山・雁坂峠・
甲武信ヶ岳・金峰山

【記】松本・福永・佐藤(けん)

11/21(土) / 晴れ 福永記

金曜日の夜、奥多摩行き電車に人は疎らでこわいくらい静かだった。駅前にコンビニはなく7キロも先だというので、まっちゃんのサワーを分けてもらい3人でいつもの前夜祭。

土曜朝一のバスは賑やかで、沢山のひとと一緒に鴨沢から歩きだす。天気も気分も上々だったが、快調なのは七ツ石山のあたりまでだった。

視界が開けヘリポートも出てきて、ここまでくれば雲取山までは遠くない。と安心したのもつかの間、私の太ももの内側の筋肉が両方とも攣ってしまった。水分補給、薬補給(耕至さんから漢方、朝鮮人参をいただく)をしてもたびたび痛むのを、騙しだましなんとか雲取山に登頂。今日は将監小屋まで行く予定で、コースタイムではあと6時間分もある。



この足だと、気が遠くなる道のりだが、基本的に平坦なはずなので行くことにする。雲取山を過ぎると我々だけになり、静かになった。草原の狼平、ポコが連なる三ツ山を過ぎたあと、飛龍山の洞回りはでっかくて、巻き終えるまでとても長く感じた。

大ダルを過ぎたところで15時になったので無線を開くも利香さんとはつながらなかった。将監小屋の青い屋根が見えてからも長かった。なんとか暗くなる前16:30に将監小屋に到着。テントには20張ものテントがあり、みんなで利香さんの名前を呼んでみるが返事がない。寝ているのか？その後、携帯で連絡がとれたが、我々がちょうど無線を開いたあたりで幕にしたとのことで合流できず残念だったが、今日とはとにかく疲れたので早々に鍋を食べて休む。

11月22日(日) / 霧 耕至記

「奥秩父の登山を目的とする人は、武甲山や三峰に登った位では、決して秩父の山を大観したとはいえない。是非とも西は小川山、金峰山から東は雲取、白岩の附近に至る間の、甲信武甲の国境山脈に聳立している山々に登られんことを希望する」とは、木暮理太郎『奥秩父の山旅日記』の一節である。このたびはまさに、この一節に従って歩みを進めたのである。

初日とはうって変わって霧にむせぶ将監小屋を経ち、峠からは唐松尾山や笠取山を経由する尾根道を敬遠して、黒エンジュを経由して笠取小屋を目指す巻き道を使うことにした。これは賢明な選択で、前日の疲労を軽減し、本日後半の激しい高低差に備えようというものである。

すでに標高1600mを超えて亜高山帯に入っており、縦走路は針葉樹林帯の林床に、笹や濃淡の苔を抱いている。所々に沢が入り込んで新鮮な水でのどを潤すこともできたが、前日とは異なり肌寒いほどで多くを欲するほどでもない。ずっとこのままならと思える静かな道を辿ると笠取小屋に着く。

この標高でも焼畑が行われ、延焼などで一面の笹原だったという写真が小屋の側にあった。「東京都水源林は東京都水道局が1901(明治34)年から管理している水道水源林で、現在はカラマツとヒノキの複層林(樹齢の違う木で構成される林)として有名な美林である。しかし、写真の当時は、山腹にほとんど樹木がなかったことがわかる」(森林飽和国土の変貌を考える NHKブックス)という一帯である。



森の消失跡の広場を1700mの雁峠に下ると、その後は2000mの稜線に乗り、古礼山や水晶山とピークを越え、日本三峠のひとつ雁坂峠へと下っていく。笠取小屋までの標高差の少ない歩みとは違ってこたえるが、さらに雁坂峠の先の雁坂嶺や破風山は、より標高差を増しての登り下りとなってくる。マッチャンが「核心部だなあ」と言っていたのがよくわかるというものだ。

破風山から下ろうとしたとき一瞬雲が切れ、甲武信が姿を現した。その高さにゾッとするもの

を感じた。地形図で見るよりずっと急で、峠から先の登りも厳しいと感じたからである。雲取からの縦走は全体として登り基調だが、逆にとったとしてもここは登りたくないなという坂を笹平に下るころ、少し遅れていた福永さんから破風山避難小屋泊りにしようかというサインがあった。当初はそういう計画もあったが、予報ではその晩から降り出す模様。避難小屋には先客が何人かあって、我々の動向を探っているかにも見える。むしろ福永さんの知り合いのいる甲武信小屋まで行ったほうが気分転換にもなるだろうと歩き出す。

昔は何度か通った道だが、深くえぐれた登山道の印象が残るだけ。16時をまわるころ、11時間近い行動時間で、なんとか甲武信小屋で幕がはれた。福永さんは常連の扱いで、「小屋番の“づめちゃん”」らに歓待してもらえ、癒された夜を過ごして翌日に備えることができたのはありがたかった。

11月23日(月) /曇りのち雪がちらつく 松本記

昨日までは、みんなのがんばりで予定どおり順調に来た。今日は大弛峠まで、行程は約6時間30分。いままで一番楽である(はず)。とにかく足さえ前に出していけば、到着するのは間違いない。天気は曇り。甲武信小屋のづめちゃんと記念撮影をしてから出発する。せっかくの甲武信ヶ岳だが展望がないよなあと思っていた矢先、すうーっとガスが抜けて晴れ間がさした！これから先の山々が見える。富士山も見えるが雪はない。12月の雪訓が心配である。

甲武信ヶ岳から下り、水師へ登りかえす。ここから国師ヶ岳までの縦走路は奥秩父でもマイナールートだ。針葉樹林と苔が一带を覆う美しい道だが、アップダウンが多い。しかも気温が低く、風が冷たい。なるべく風を避けるようにして、震えながら休憩をとる。

なんといっても国師のタルから国師ヶ岳までが遠かった…。ニセピークに騙されて、くじけそう

になる。国師ヶ岳に着くと、寒さのあまり大弛峠へさっさと下りだす。大弛峠までは階段が延々と続く。観光客用であろうが、歩きづらいこと、このうえない。

12時ごろ、本日の予定地大弛峠に到着した。順調だ。とりあえず大弛小屋に入る。すると福永さんが「あったかいものが食べたい〜」と言いだした。きのうから調子がわるかったようだし、今日もがんばって歩いてきたのだ。では、私と耕至さんはビールにしましょうか、と休憩にする。早めに着いたので、この先の金峰山へ行くか、ここに泊まるかの相談をする。外は雪が舞っている。午後から天気はわるくなる予報だ。行っていけないこともないが、福永さんの体も心配だしなあ。で、結局泊まることにした。ビールを呑んでいると、バスの運転手が入ってきた。大弛峠から塩山駅までのバスが今日まで運行しているという。これは知らなかった。今日は連休最終日で、明日下山する瑞牆山荘からのバス便も今日で終わり。つまり明日はタクシーに乗らないといけな。下調ベミス。うっかりぼんである。次のバス便は16時出発だそう。テントの料金を払い、テントを張る。この日の夕食は耕至さんが担当で、福永さんの誕生日前夜祭だ。なにをつくってくれるか楽しみにしていたのだ。そして、できあがったのは、ちらしずし！女の子



の節句みた〜い！ 乾杯！ 幸せだな〜。と、テントを張り、宴を行い、いい加減酔っ払っている私たち。このまま明日は金峰山に立ち、瑞牆山荘へ下り、奥秩父主脈縦走完遂！の宴をも予定していたにも関わらず…。突然、神のお告げを受けた人のように、なぜか下山を決めてしまったのだ。みんなの意見が一致した。そうと決まればテントを撤収し、バスに駆け込む。

今回のいちばんの敗因は大弛峠から塩山駅行きのバス便があると知ってしまったからだと思う。天気も明日下りてもタクシーだし〜という、せこい根性が逃げへの気持ちに走ってしまったのかも…。大弛峠は「魔が差す」峠である。これから縦走するひとは、くれぐれもお気をつけください。

【行程】

- 11/21 (土) 鴨沢 (6:50) ~雲取山 (11:30) ~飛龍山直下 (14:30) ~将藍小屋 (16:30)
- 11/22 (日) 将藍小屋 (6:30) ~黒エンジュ (8:40) ~笠取小屋 (9:50) ~雁坂峠 (11:30) ~西破風山 (14:00) ~甲武信小屋 (16:00)
- 11/23 (月) 甲武信小屋 (6:40) ~甲武信ヶ岳 (7:00) ~富士見 (7:55) ~東梓 (8:55) ~国師のタル (9:30) ~大弛峠 (12:00) ~下山開始 (16:00) ~塩山駅